

社会保障・税一体改革をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年2月10日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:011-758-4666

必要な介護が受けられるように、北海道と懇談、要請



2月10日(金)、北海道社保協は、高齢者が人間らしく住み続けられる北海道にするために、北海道と介護問題で、懇談、要請しました。

今回は、①介護保険料、利用料の軽減、②介護職員の処遇改善と養成、③介護職員の医療行為問題、④特別養護老人ホームなどの基盤整備拡充などで要請しました。

値上げは国のネグレクトになるのでは！

道社保協の調査でも多くの市町村が値上げを予定していますので、道に保険料軽減施策を求めました。参加したケアマネジャーは「値上げで高齢者が排除される可能性があります。今でも保険料を滞納して利用できない人がいます。後期高齢者医療保険料等も上がり高齢者の生活が大変になります」と改善を求めました。

道の財政安定化基金について、取崩額の拡大と道・国分も保険料の軽減に回すように要望しました。参加者からも「保険料軽減に使う県もあるので、道も保険料軽減に使ってほしい。市町村の保険料や利用料の軽減に、国保では道が支援しています。介護分野でも行ってほしい」と要望。

介護職員の退職率2割・処遇の改善こそ必要 道計画の介護職員1万2千人増の対策は？

労働組合の代表は「介護は産業別に見て特に低い。介護報酬1.2%上がるといわれていますが、処遇改善の加算分が2%相当で実質マイナス。3年後には加算がはずれ、将来賃金が減る可能性があります」と指摘。道は、「訪問介護員の退職率は、道平均が18.5%で全国平均(17.8%)を上回り(H21.10-H22.9)、その理由は人間関係や収入面などが20%を超えている」「21年度の介護報酬改定は処遇改善を前提にアップしたが改善につながらず、交付金制度ができた経過はある」と発言。「介護報酬加算は、保険料に跳ね返り住民も道の負担も増える。引き続き交付金の継続拡大を求めています」と要請しました。

「もっと利用者の介護こそしたい」 介護職員の医療行為は、介護職員、看護師からも不安続出

介護職員の医療行為問題では、介護職場や職員からも不安の声が広がり損害保険も話題になっています。看護師からも「病態が悪化した時にそれを見抜き、対応できるか」との心配の声も。「医療行為ができる職員を増やして対応すべき」と要請しました。道は「研修を受けて行うことは利用者本位に考えると負担軽減になると思います。研修を受けたらすぐにできるわけではないので、フォローアップなどスキルアップが必要」と回答。介護職員からは「今でも十分な介護ができていない。もっと利用者の立場の介護がしたい」と訴えました。

「2万6千人の待機者、3000床増では少なくすぎる」

「北海道の特養待機者は2万6千人なのに道の計画では2935床の増、解消しないのでは」との問いに、道は「将来の入所の希望、在宅制度が充実すると施設でなくてもよいという方もいます。在宅も充実させ、市町村でも小規模多機能や訪問看護など広げています」との回答。特養で働く職員からは、「在宅を充実させるのは必要ですが、その場合、施設があって『いつでも入れる』という安心感が大切。2935床ではだれが考えても少ないと思います」と発言。「施設建設にはお金もかかる。国にも働きかけて財政支援を」と要請しました。

北見

介護職員、薬剤科職員など8名が 怒りの声！



オホーツク勤医協では、毎月行われている9日行動で、8名の職員が訴えました。「私は勤医協デイサービスセンターで働く職員です。私たちのデイは日々笑い声や笑顔が絶えません。そんな中、今年の『介護報酬改定』は、現状の運営状況では10%もの報酬が減らされてしまうという大きな不安を強いられる中身です。わかりづらい介護制度も含め、このままでは今デイに通っている利用者様を守っていくことができなくなります。このような国の政策に対し今こそ声を大にして怒りの声を訴えかけていかなければいけないと思います」(オホーツク勤医協社保平和ニュースより)